

ご入院される方へ

より安全な医療を実現するため

医療安全活動に
ご参加ください



東邦大学医療センター佐倉病院

目次

はじめに	1
ご本人確認について	2
お薬の申告と持参について	3
転倒・転落予防について	4
せん妄について	7
誤嚥防止について	8
アレルギー予防について	10
手術・治療・処置・検査について	11
深部静脈血栓症予防について	12
医療機器の安全使用について	14
感染対策について	15
院内禁止事項について	16
入院のご案内について	17

はじめに

安全な医療を実現するには、医療者側の努力だけではなく、さまざまな形で患者さん・ご家族が医療に参加することが重要です。

患者さんの名前や治療部位の確認、薬の投与などの確認の際、私たちの思い込みや勘違いが原因となる間違いが発生することがあります。その際、「名前が間違っています」「右ではなく左です」「私の薬ではありません」と指摘していただくことや、私たちが名前をお聞きした時に自分の名前をはっきり名乗っていただくことが、「医療に参加すること」にあたります。

患者さん・ご家族と医療者が協力し、より安全な医療を実現するために、医療安全活動にご参加ください。



ご本人確認 について

ご本人確認は、「患者さんご自身に名乗っていただくこと」と入院中すべての患者さんに装着をお願いしている「リストバンド」で確認をしています。

入眠中や夜間もご本人確認をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。



入院中のご本人確認

患者さんご自身に「**名乗っていただく**」ことが一番確かです！

東邦 太郎です
氏名
をお願いします

また
「**リストバンド**」で確認いたします！

入院中のご本人確認

患者さん間違いを防ぐには

患者さんご自身に「**名乗っていただく**」ことが一番確かです！

東邦 太郎です。
氏名と生年月日
をお願いします

平成3年6月10日
生まれです。

患者さんから名乗って頂けると助かります。
医療安全にご理解とご協力をお願い致します。

外来のご本人確認

リストバンド装着時の注意

- ご入院中は常時（入浴中も）装着していただきます。
- 外出・外泊時はリストバンドをはずし、帰院時に、再装着していただきます。
- リストバンドがきつい場合や、肌を傷つけた場合、またリストバンドが原因でアレルギー等が生じた場合は医師・看護師へお知らせください。

お薬の申告と持参 について

- お薬手帳をお持ちの方は、必ずお持ちください。
- お持ちいただいたお薬とお薬手帳は、速やかに医師・看護師・薬剤師にお渡しください。
- お薬は患者さんの病状に合わせて処方しています。お薬を、ご家族や他の患者さんからゆずりうけたり、ゆずったりすることは大変危険ですのでおやめください。

*** 血液を固まりにくくするお薬・糖尿病のお薬、経口避妊薬など、事前に中止しないと検査や手術が受けられないお薬やサプリメントがあります。そのため、飲んでいるお薬は全て、医師・看護師・薬剤師に必ずお伝えください。**



転倒・転落予防 について

転倒・転落によるけがなどで、さらなる治療が必要になったり、入院期間が延長する可能性があります。不安があれば遠慮なくナースコールで看護師をお呼びください。

テレビの11チャンネル(無料)で「転倒・転落予防について」を常時放送しておりますので、ご覧ください。

入院中の転倒・転落予防にご協力をお願いいたします。

1) なぜ転んでしまうの？

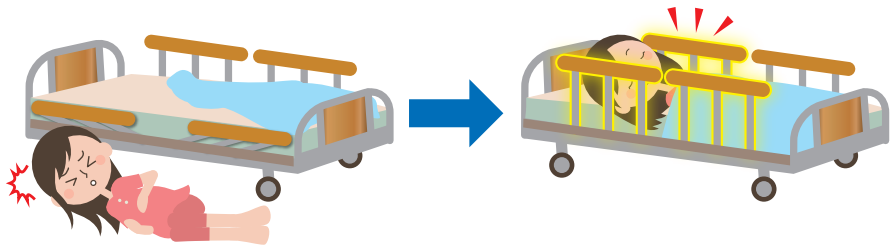
- 入院生活は、住み慣れたご自宅と生活環境が大きく異なり、また、病状の変化等により注意力が低下することがあります。そのため、いつもは回避できる危険な場面に気付けないことがあります。
- 病気やケガにより、体力や運動機能が低下していることがあり、1日寝ていた(安静にする)だけでも、筋力が低下していることがあります。自分が動けると思っていても、体が思うように動かないことがあります。
- 点滴をしたり、身体に管が入っていると、動きにくく、管にひっかかることがあります。
- 薬によっては、ふらつきが生じることもあります。



2) 転倒・転落を防ぐためのお願い

〈ベッドサイドで気をつけること〉

- 足に力が入るか確認してから動き出しましょう。
- 点滴棒やオーバーテーブルなど不安定なものにつかまらないようにしましょう。
- ベッドの上で立ち上がらないようにしましょう。
- ベッド柵は常時、頭側の左右2箇所を上げておき、必要時足側の柵も上げておきましょう。



〈トイレで気をつけること〉

- 手すりがある場合は、手すりにつかまりましょう。



〈はきものに気をつける〉

- はきなれていて、足元が安定している、かかとが覆われた靴タイプの「はきもの」が安全です。
- ご自宅ではいている運動靴やスニーカーなどをお持ちいただいても結構です。
- 転倒予防シューズは、当院売店でも販売しています。

かかとを覆うタイプの「はきもの」



〈その他〉

- 手すりや杖の使用は歩行が安定し効果的です。

ご家族の協力が大切です

「短い入院だからスリッパで」、「家でもスリッパだから」と言われる方もいますが、入院中の転倒によって重大な傷害が生じることがあります。転びにくく、かかとを覆う「安全なはきもの」をご用意ください。

*状況に応じて体動を検知するセンサー等の使用を検討させていただきます。



せん妄 について

せん妄とは

環境の変化や手術、点滴治療、安静、絶食、痛みなど、様々なことが原因で意識が混乱することを言います。

すべての方に起こるわけではなく、多くの場合一時的なもので、大半は身体の回復に伴って改善します。

せん妄の時は、次のような変化が起こります

- 場所や時間の感覚が鈍くなる。
- 幻覚が見える。
- 話のつじつまがあわない。
- 身体についている治療のための管をぬいてしまう。
- 転倒・転落のリスクが高くなる。



本人を尊重した会話をこころがけてください。

- 否定したり、指摘したりしないでください。



誤嚥防止 について

食事中にこのような症状はありませんか？

- 飲食物や唾液を「飲みこむ時」や「飲み込んだ後」にムセる
- 食べるのが遅い、食べにくい
- 口から食べ物がこぼれる
- 痰がからんだ感じがある
- 水分をとった後にのどから「ゴロゴロした音が聞こえる」
- 食べ物が「いつまでも口の中やのどに残った感じがする」



上記項目で1つでもチェックがある場合は必ず看護師にお伝え下さい。医師・栄養士・言語聴覚士とともに飲みこむ力や嚙む力を評価させていただきます。飲食物や唾液が誤って気管に入ることを「誤嚥」といいます。誤嚥は肺炎につながる場合があります。原因は様々ですが、体調不良での体力低下、入れ歯の有無や使用状況によっても、飲みこむ力が低下し、「誤嚥」や「窒息」を起こす危険があります。

症状がない方も病院でご提供する食事の形態をご確認いただき、しっかりと噛んで飲みこむようにしてください。

食事の硬さや大きさは変更が可能です。「入れ歯が合わなくてかみにくい」「肉は飲みこめない」「生野菜は喉に引っかかりやすい」など、食事に関して気になることがありましたら、医師・看護師に遠慮なく、お伝えください。写真入りの献立表もございますので必ず、ご確認ください。

※嗜好品への個別対応はできません。

食べる時の注意点

料理を確認する



よく噛む



食事に集中し、
ゆっくり食べる



しっかりと飲みこむ



アレルギー予防 について

アレルギーとは

私たちの体には、有害な細菌やウイルスなどの病原体から体を守る「免疫」という働きがあります。この「免疫」が食べ物や薬など私たちの体に害を与えない物質に対しても、過敏に反応してしまい、本来は体を守るはずが自分自身を傷つけてしまう反応をおこすことをアレルギー反応といいます。

お薬や食べ物で以下のような経験をした方は、医師・看護師・薬剤師にお伝えください。お伝えいただいた情報をもとに注意しますが、患者さん・ご家族もお薬や食事をご確認ください。

皮膚症状

- かゆみ、ほてり、むくみ、赤み、じんましん

粘膜の症状

- 眼：かゆみ、充血、涙目
- 口腔：口腔・唇・舌の違和感・腫れ

消化器症状

- 下痢、腹痛、吐き気・嘔吐

呼吸器症状

- 喘息、咳、息切れ、呼吸困難感

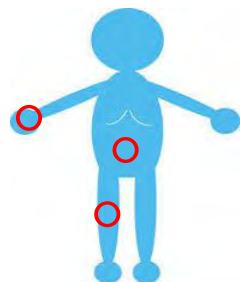
神経症状

- ぐったり、意識もうろう



手術・治療・処置・検査 について

- 手術・治療・処置・検査などで左右間違いや部位間違いが起こらないよう、必要に応じて実施前に部位を確認し、マーキング（目印）をさせていただきます。



- 検査の結果をお尋ねください。

検査によっては結果が出るまでに時間がかかる場合があります。検査結果が確実に伝わるために患者さんからも「〇〇検査の結果はどうでしたか？」と医師にお尋ねください。

検査の結果をお尋ねください。



〇〇検査の結果はどうでしたか？

患者さんも医療者も、治療のために力を合わせるチームの一員です。検査を治療に役立てる為、その結果を患者さんと医療者が共有することが大切です。

検査結果が確実に伝わるために、患者さんからも「〇〇検査の結果はどうでしたか？」と医師にお尋ねください。

深部静脈血栓症予防 について

手術や治療のためベッドで寝たきりの状態が続くと、足から戻ってくる血液の流れが悪くなり、血のかたまり（血栓）ができやすくなります。血栓が肺へ流れていくと肺の血管を詰まらせ（肺塞栓）、突然、呼吸困難や胸痛、場合によっては心臓が停止します。

この病気は飛行機に長時間乗った際におきることがある「エコノミークラス症候群」とも呼ばれています。

予防方法

下肢の血液の流れを促すために積極的に足を動かす以外に、当院では患者さんの状態に応じて、以下の予防策をとっております。

1) 弾性ストッキングの着用

ヒザからつま先を適度な圧力で圧迫する特殊なストッキングをはいていただきます。

2) 足や下腿に圧迫ポンプの装着

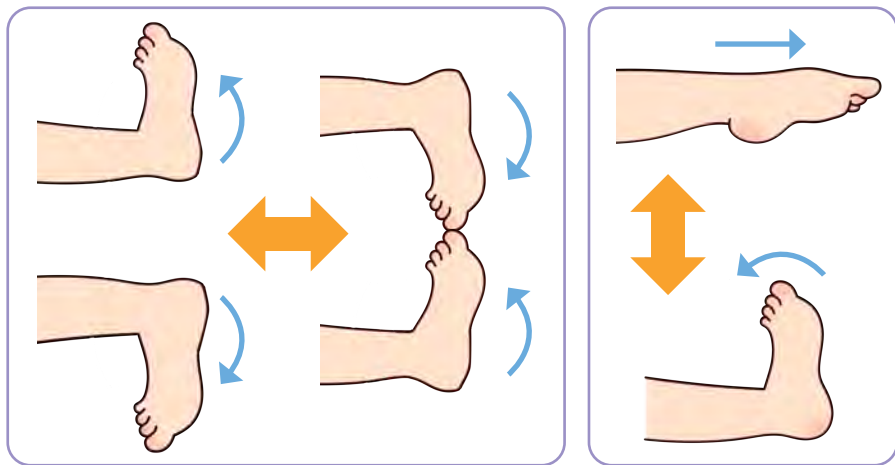
筒状の装置をヒザからつま先にかけて巻き、間欠的に空気を送り込み、血流を良くします。

3) 抗血栓剤の投与

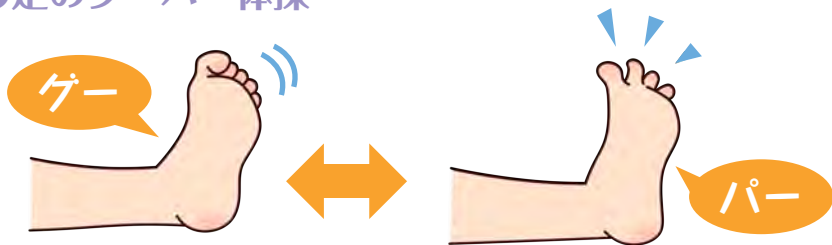
血液を固まりにくくする薬を使用して血栓の発生を予防します。副作用として出血しやすくなることがあります。

ベッド上でできる予防運動

(1日数回、各運動を①セット10回程度行いましょう。)



●足のグーパー体操



ベッドで寝たきりの状態から動き始めると、しばらくの間は症状が出やすい傾向があります。いつもと何か違うと感じることがあったら医師・看護師にお伝えください。

医療機器の安全使用 について

- ペースメーカーや植え込み型除細動など体内植え込み型医療機器を使用されている方は**必ず手帳を持参**し、医師・看護師にお伝えください。
- 携帯電話により医療機器が誤作動を起こす場合があります。携帯電話は指定された場所で使用するようお願いいたします。
- 使用中の医療機器に異常を感じた時は、医師・看護師へお伝えください。

ペースメーカーや
植え込み型除細動などの

**医療機器手帳を
必ずご持参ください**



診察・治療に手帳の情報が
必要です。手帳がないと検査・治療
ができない場合があります。

必ずご持参ください!!

また、万一、意思を伝達できない状態になったことを考えて、常に携帯してください。



感染対策 について

入院中は治療の影響により、普段よりも身体の抵抗力が弱くなる場合があります。院内感染を予防するために以下の点についてご協力をお願いいたします。

手指衛生について

- 各種感染症から身を守るため、食事前・トイレの後・検査の後・病室に入る前など、手洗いまたは手の消毒をこまめに行ってください。



个人防护具（マスク・手袋・エプロン）について

- 廊下に設置された手指消毒剤をご利用ください。
- 常時、マスクの着用をお願いいたします。
- 医療従事者は他の患者さんなどへ感染拡大を防ぐために、手袋・ビニールエプロン・マスクなどを着用します。ご家族にもご協力いただく事があります。

細菌検査について

- 必要に応じて、細菌の培養検査などをさせていただくことがあります。

院内禁止事項 について

入院中以下のような迷惑行為があった場合は、治療の継続が不可能であり、転院・退院していただくことがあります。状況により警察に通報いたしますのでご了承ください。

- 医師・看護師・その他の職員への過剰な要求・解決しがたい要求
- 暴力・暴言・大声・威嚇等
- みだらな行為・セクハラ・ストーカー行為
- 故意による建物・設備・機器などの汚損または棄損
- 危険物の持ち込み
ライター・マッチ等の火気
はさみ・ナイフ等の刃物
(必要な場合は看護師にご相談ください)
- 喫煙・飲酒
- 入院中の無許可での外出・外泊
- 診察・治療・面会等を目的としない病院無許可の院内への立ち入り、職員以外の立ち入り禁止・制限区域への無断立ち入り
- 面会者の許可時間外の院内残留
- 指定場所以外における携帯電話での通話
- 許可なく撮影・録音等をする行為
- その他、当院での決まりに反する行為



入院のご案内 について

テレビの11チャンネルで

- 入院のご案内
- 手術を受けられる方へ
- 転倒・転落予防についてを常時放送しており、
無料でご覧いただけます。
- 入院後必ずご覧になり、
医療安全活動にご参加ください。





医療安全管理室・感染対策室
2024.04改訂